

令和7年度  
ほほえみの郷  
げんき村  
小規模多機能型居宅介護つどい

## 非常災害対応時研修 兼 水害時垂直避難訓練 概要

場所：住宅階段

日時：令和8年1月3日(土) 非常災害対策研修(水害時垂直避難訓練)

参加者：柳田、小野寺、丸山、榊原、千葉、岩崎

：入居者 菊池様(見学)

目的と内容

- ①ハザードマップ、備蓄の確認
- ②自力で階段を昇れない利用者様を想定し垂直避難の実施  
反省点や改善点を見つける

①ハザードマップの確認～

1. 洪水時に施設の状況把握
2. 地域の避難場所など確認。
3. 備蓄の確認
  - ・現在に備蓄品の確認
  - ・足りないものや必要な物の確認。

②水害で、1階が浸水した時の避難経路と誘導方法の確認。

「階段での垂直避難の実施」

☆シーツ Ver.(女性)



☆シーツ Ver.モデル(男性)

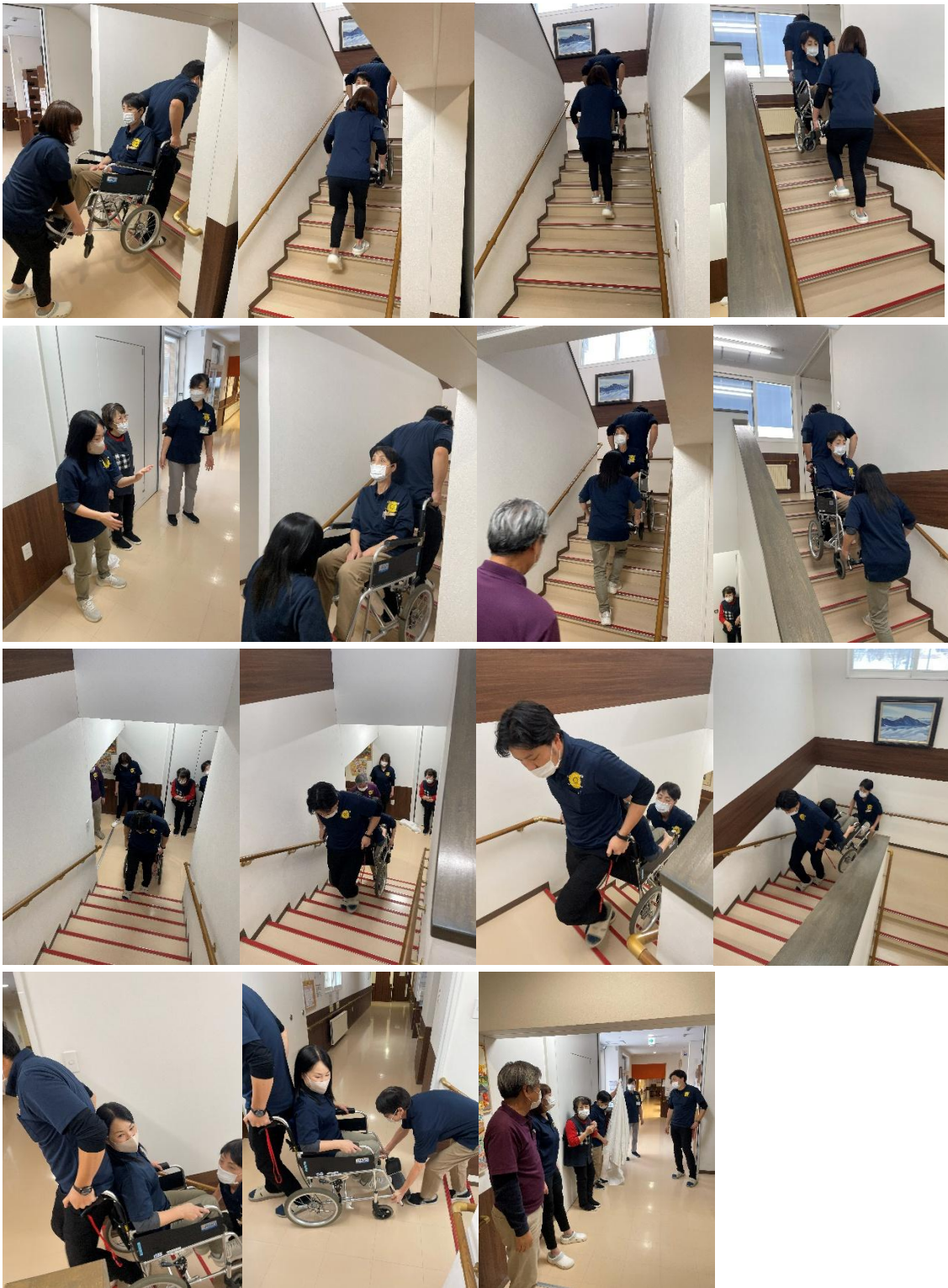


☆車椅子(3人介助) Ver.モデル(女性)



☆車椅子(二人介助) Ver.モデル(女性)





水害時、垂直避難訓練終了

## 良かった点・気づいた点・反省・総評・課題

### ○シーツを使った避難について

- ・要救助者の体格に合わせて、シーツの持つ位置等も変わる事。
- ・階段を上がる時に、ある程度の角度がつくので要救助者を落とさないように注意が必要なこと、なるべく怖い思いをさせないように声掛けが必要。
- ・実際に人を運ぶことで気づいたこともあり、やってよかった。
- ・シーツなどを利用することで避難可能だと理解できた。
- ・入居者の体形、体重によっては力の入れ具合がバラバラで介助側が無駄な力を使う所もあった。

### ○車椅子を使った避難について

- ・最初は下方が重いのではないかと思っていたが、やってみると要救助者の重心は上側に来るので、力のある人が上側を持った方が良かった。
- ・要救助者からは少し上向きになるようにすると安心できたと意見が聞かれた。
- ・階段の幅は限られている為、いかに幅を取らずに避難を行うか検討出来た。
- ・介助者は車椅子のハンドルを背にして前向きに持ち、後ろの人はなるべく車椅子の下の方を持ち上げるようにすると持ち上げやすく、乗った時も不安にならなかった。
- ・車椅子の抱え方など実践できた。
- ・実際に車椅子に乗った状態での重量を体感することができてとても良い経験になった。
- ・ハンドルは二人で持つより、一人で持つ方が楽に感じた。

## 総評、その他

- ・今回は、要救助者役をスタッフが行ったのでスムーズにシーツに横になり、車椅子に乗れたが、動揺している利用者様を避難させることを考えると、また違った課題が見えてくるような気がする。いかにスムーズに避難できる体制を作るか、普段から入居者側にも心構えをしてもらう為にも事前にパンフレットや案内文等を使って周知しておくのも有効だと感じた。
- ・実際に人を2階に運ぶという一連の動作確認が出来て、理解できた。
- ・最低限3人~4人のスタッフが必要だとわかった。
- ・続けて行くと体力が持たず、職員によっては3往復が限界と感じる。

## 課題

- ・夜間などスタッフが少ない時の対応策の検討
- ・できるだけ多くの入居者参加型訓練の実施
- ・小柄な人でも垂直避難となると重さを感じた。
- ・回数が多くなると、安全にこなせるのかという不安がある。
- ・入居者様へ災害が起こった時の「二次災害のための防止」

(地震など発生している間は、家具が倒れてきたり、高いところに置いてある物が落ちてきたりする可能性がある。そのため、頭を守るためにテーブルの下などの安全な場所に避難し揺れが収まるまで身を守る)

ガラスや家具が床に散らばった場合は靴を履くなど、揺れが収まったあとも安全に注意する)などの案内文を入居者様に対して周知が必要。